

佐賀大学における OAの取組みについて

世界的に学術情報のオープンアクセス(OA)化の流れが加速する中、日本においては2024年にOAの実現に向けた国の基本方針*が定められ、2025年度以降、対象となる公的資金による学術論文および根拠データは、機関リポジトリ**等への掲載によりOA化することが義務づけられました。

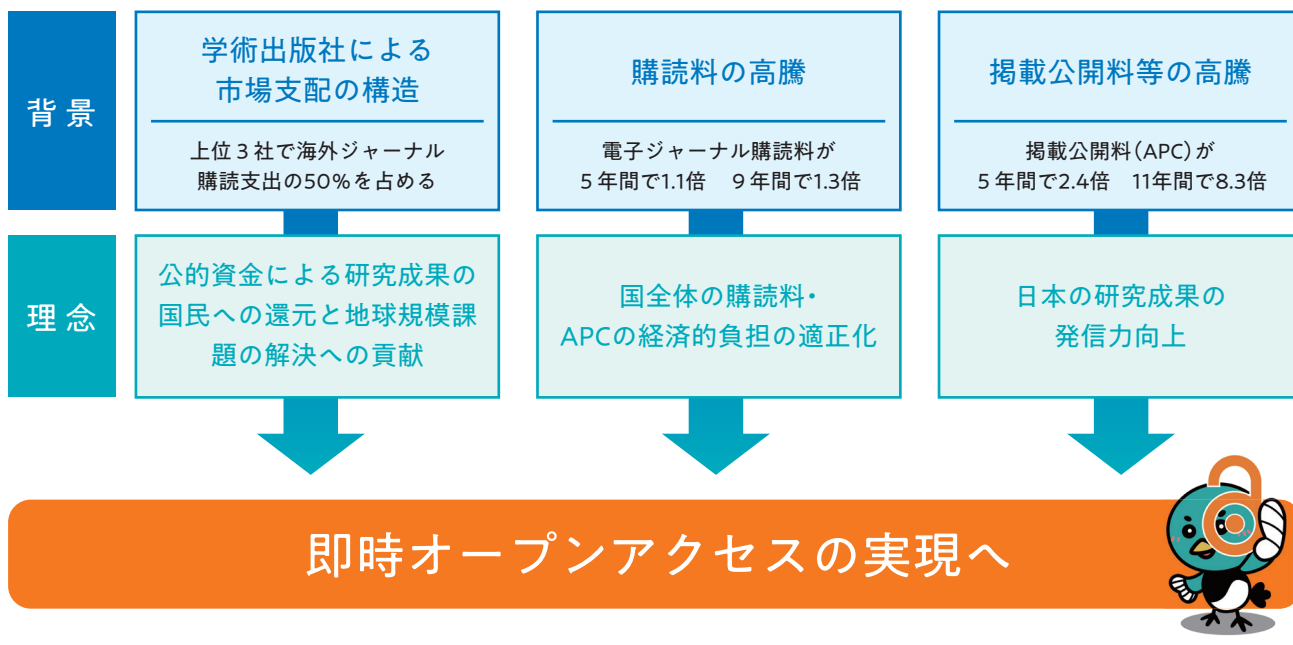
本学では、2023年に佐賀大学オープンアクセス方針を制定し、佐賀大学機関リポジトリによる本学研究成果のOA化を進めています。

OA義務化の対象となる研究成果はもちろん、本学における研究成果は、附属図書館を通じて佐賀大学機関リポジトリで公開できます。

*…学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針
(2024年2月 内閣府統合イノベーション戦略推進会議決定)
https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf

**…学内で生産された学術情報をウェブで公開するアーカイブシステム。
佐賀大学機関リポジトリ→<https://saga-u.repo.nii.ac.jp/>

学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針(背景と主な内容)



参考:「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策について
(2024年8月 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局) https://www8.cao.go.jp/cstp/hosaku_setsumei.pdf

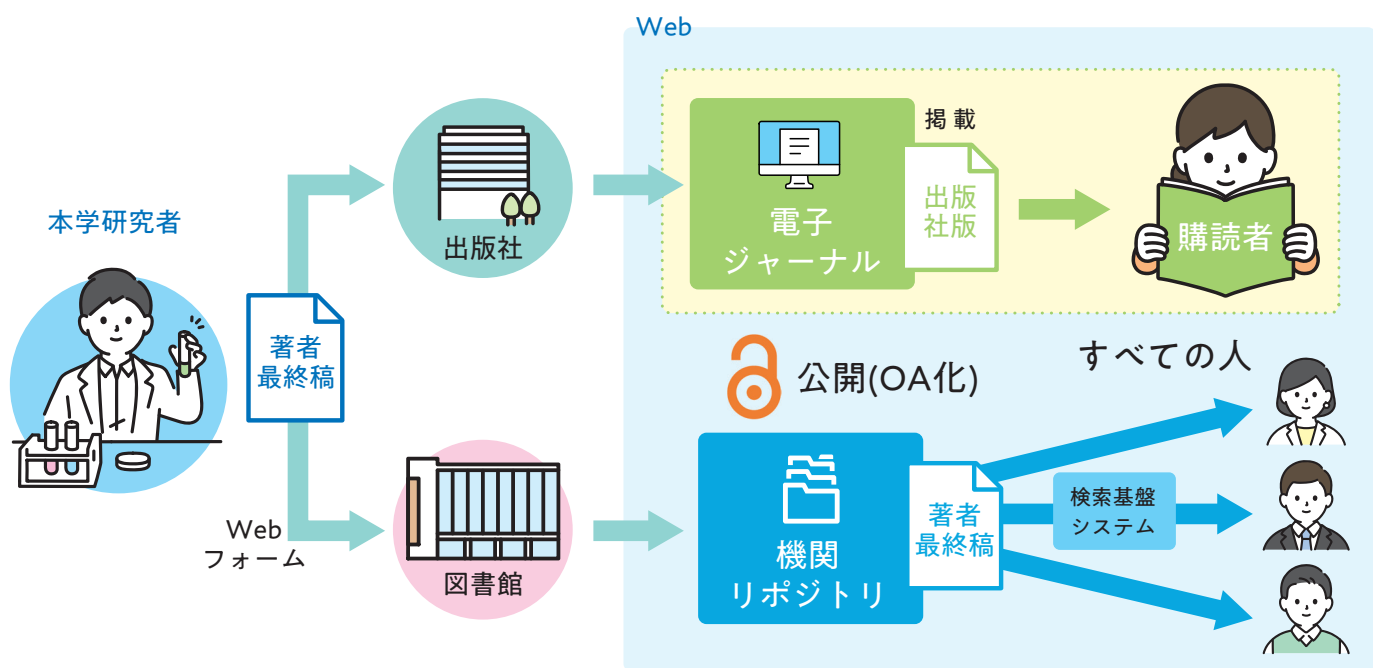
OA義務化の対象

2025年度から新たに公募を行う、科研費を含む競争的研究費による査読済み学術論文(著者最終稿含む)および根拠データ(掲載雑誌の執筆要項、出版規定等において公表が求められるもの)

OA化の時期

学術雑誌への掲載後即時
(ただし、出版社の著作権ポリシー等の範囲内において行う)

機関リポジトリによるOAのイメージ



OA化の方法

学術雑誌に論文が掲載されることが決まったら、**図書館の専用フォーム**でOA化する論文の著者最終稿*と、(必要であれば)研究データ、および連絡先等の必要情報を登録して送付してください。



- 共著者がいる場合、OA化について共著者全員の承諾を得てください。
- 図書館で掲載雑誌の出版社や学会の著作権ポリシーを調査し、ポリシーに合致する かたちで佐賀大学機関リポジトリに搭載して、公開します。
- 著作権ポリシーにより、機関リポジトリによるOA化が認められない場合や 掲載雑誌の発行から半年～2年程度経過後にのみ認めている場合があります。
- 学内発行紀要等に掲載された論文および学位論文については、別の手続きにより 公開するため 著者による送付の必要はありません。

*…著者最終稿とは、アクセプトされた原稿のことで、出版社の最終校正やレイアウトが行われる 前のものです。
多くの出版社では著者最終稿に限り機関リポジトリによるOA化を認めています。

OA化が義務となっていない論文や研究データについても同様の方法により機関リポジトリで公開できます。OA化することにより論文が多くの人目に触れることとなり、被引用率が高まるなどのメリットがあります。

登録用Webフォーム | <https://forms.office.com/r/nsvLyEwif8>

問い合わせ先

情報図書館課学術情報主担当

内線：本庄8905・鍋島からは6-8905 E-mail: denshi@mail.admin.saga-u.ac.jp



登録用Web
フォーム